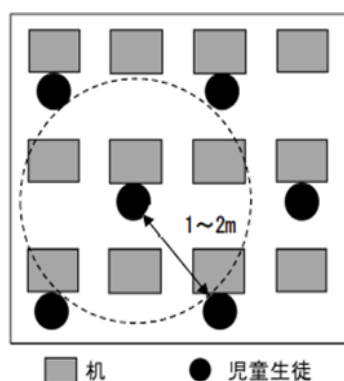


- 基本的な考え方 「可能な限り感染及びその拡大リスクを低減させながら学校における教育活動を行う」という観点にもとづき、①感染症対策の徹底とその拡大リスクの低減に努めること ②体調不良の児童、感染者が発生した際の対応体制を築いておくこと ③一連の取組をことあるごとに評価しながら改善していくこと

- 教室環境 身体的距離の確保

「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」（文科省）に示した感染症対策を行うほか、必要に応じて学級を複数のグループに分けた上で使用していない教室を活用するなどして、児童の席の間に可能な限り距離を確保し（約1～2m）、対面とならない形で教育活動を行うことが望ましいこと。



左図：身体的距離を確保した座席配置のイメージ

ただし6月以降、本格再開となり、全校児童が登校することになれば物理的にも無理な状況となります。校医の先生や市教委の指導のもと対応することになります。

この対応は、咳エチケットを行っていない場合、くしゃみや咳のしぶきは約2mの距離まで届くことを懸念しての座席配置です。マスクを常時つけるということで感染を防ぎたいと考えています。

あわせて、学年・全校集会は時間、内容、取り組み方を吟味した上で、屋外や体育館で実施します。 参考：文科省 5/1 付通知

- 教室環境 換気 手洗い・マスク ゴミ箱

- ・ 常時、2方向の窓を広く開け換気する。換気扇があれば動かす。
- ・ 手洗いは、外から戻った時、トイレのあと、給食の前後などに流水と石鹸で行う。
- ・ 基本的に、マスクを着用して過ごす。ただし、体育や屋外での活動は、距離が十分にあれば不要。
- ・ 教室のごみ箱は撤去し、各階廊下に蓋つきをつけて設置する。

- 各教科等の指導における感染症対策について

各教科等の指導については、以下に掲げるものなど感染症対策を講じてもなお、**感染の可能性が高い学習活動については行わない。**

- ・ 音楽科における狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動
- ・ 家庭科における調理等の実習
- ・ 体育科における児童が密集する運動や児童が近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動
- ・ 児童が密集して長時間活動するグループ学習
- ・ 運動会や文化祭、学習発表会、修学旅行などは、児童が密集して長時間活動することのないよう配慮

- 休み時間の過ごし方 外遊び

- ・ 休み時間の外遊びをすすめる。密集、密接、密着してしまう遊びは避ける。

- 新型コロナウイルスに関する正しい知識の指導

新型コロナウイルスに関する正しい知識を身に付けるとともに、その感染症対策について、児童が感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、「新型コロナウイルス感染症の予防」資料等※を活用し、発達段階に応じた指導を行う。

※https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/08060506_00001.htm

- 登下校の工夫について

登下校中については、校門や玄関口等での密集が起こらないようにすることや、分団登下校で密接とならないよう指導する。その際、特に通学に不慣れな小学校第1学年の安全に十分注意する。

以上の留意事項は、日々の状況をもとに、そのつど見直しをはかります。さらに、6月以降、暖かくなり、「給食」や「そうじ」などの活動がはじまっていくと、体調管理のしかた、活動のしかたに関わり、事前準備と指導、事後の消毒作業などを再検討し、取り組むべきことを変更していくものととらえています。

保護者の皆様には、一層のご理解とご支援を頂戴することになると思われます。よろしくお願ひします。